

検討テーマ：「子どもの健全育成と高齢者の安心できる地域づくりについて」

(○：前回までの意見、■：今回出た意見、●市長の発言)

	課題	方策
高齢者の見守り	<ul style="list-style-type: none"> <li>○高齢者の経験と知識を活かせる環境が無い。</li> <li>○老人会の会員が少ない。会員と声かけや見守りを重点的に行いたい。</li> <li>○1人暮らしなので、いつ倒れるかわからない不安がある。</li> <li>○高齢化により水路掃除などの環境整備を行う人材が減っている。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○高齢者が元気になる趣味の会や、高齢者が集まる場所を作る。</li> <li>○退職者が自分の特技や知識を学校で活かすことができないか。子どもたちと退職者のつながりができる。</li> <li>○ひきこもらないように地域で援助しているので、民生委員に声をかけて欲しい。</li> <li>○自治会と民生委員が協力</li> <li>○中学生の支援ボランティアを増やす。</li> <li>○1人暮らしの方を訪問して話を聞く活動(ボランティア)をしてはどうか。</li> </ul>
地域と学校の連携	<ul style="list-style-type: none"> <li>○中学校区の各町内会長が集い、地域連携連絡評議会を開いた。どうしたら中学生が地域とのつながりを持てるか話し合いを行った。</li> <li>○現役世代・保護者の参加が少ない。</li> <li>○学校やPTAには、地域の情報がなかなか回ってこない。</li> <li>○地区の運動会は少子高齢化でプログラム作りが苦労している。小学生は親と一緒に参加してくれる。運動会の運営等に中学生の参加をお願いしたい。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○市の事業で、学校地域支援事業本部を立ち上げる。地域の人に学校の支援をしてもらい、中学校も地域に貢献していく。</li> <li>○学校に地域コーディネーターに入ってもらおう。教員は数年で異動になるが地域の方だと顔つなぎ役になるので、太いきずなができる。地域とのパイプ役。</li> <li>○PTA役員は2年で終わるが、OB会みたいな形で何かしら携わっていきたい。</li> <li>○防災訓練や地域の行事に積極的に参加することで、つながりをもちたい。</li> <li>○保護者はなかなか参加できない。子どもを持つ家庭とコミュニケーションをもち、子育て世代の意見を伝えて欲しい。</li> </ul>
各団体の組織の把握	<ul style="list-style-type: none"> <li>○きずなづくりの活動ができつつあるが、見える形になっていない。全体の形の体系図が出来ていない。</li> <li>○北上には子どもの健全育成会があるが何をしているかわからない。</li> <li>■独立した防災組織を作ってもらいたい。自治会長は1年交代なので、わからない事がたくさんある。自主防災会は名前だけ。役員に常に知識があるわけではない。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○地域の中で決まっていること、行政で決まっていることなどを明確にすればすぐ分かる。新しい役員にこの地域の体系図はこうなっていると示すのが第一歩。</li> <li>○北上地区の健全育成とは何なのか、安心できる地域とは何なのか、意識の共有をしていくことが必要かと思う。</li> </ul>

(○：前回までの意見、■：今回出た意見、●市長の発言)

	当面の取組み・課題	取組みの担い手／アイデア
高齢者の見守り	<p>■お年寄りには生きがいも必要。知識と経験を活かして隣近所の地域コミュニティのリーダーを担ってもらい、存在意義を感じてもらおう。</p> <p>■皆で協力し合うことが必要。</p> <p>■要援護者に対しては各組で対応する。話し合いが不十分なので、組長、町内会長、民生委員で早めに相談したい。</p> <p>■市から避難指示が発令された場合、町内会は具体的にどう動くのか皆知らない。組長への指示や、消防団との連絡、市との連絡など全く対応出来ない。災害時の対応を勉強したい。</p> <p>■高速道路下の花壇について、街中から外れた場所でも市で呼びかけてほしい。お年寄りに手入れしてもらおうといいのではないかな。</p> <p>●自分たちで地域の花壇作りに取り組んでほしい。地域がきれいだとその土地の資産価値が下がらない。またお年寄りの生きがいや地域のきずな作りにつながっていく。</p> <p>■「自分たちで出来ることは、どういう事があるのか」と考えるように変わってきた。市に頼るのではなく、行政を利用し、自ら行動していくこと。</p>	<p>■高齢者の生きがいについて、趣味を活かしたシニア文化祭などを考えている。(萩町内会)</p> <p>■芙蓉台には支援ボランティア会があり、毎月一回事務局会議を実施。民生委員、自治会長が出席し、地域の色々な問題を話し合っている。包括支援センターとも組み、問題のあるお年寄りの情報を共有している。又、月一回、公民館でお年寄りに食事をふるまう活動を十年以上実施。費用1人100円。お年寄りが作った野菜を持ち寄り、前日から料理の準備をするシステム。</p> <p>■民生委員として、年一回の調査と見守りを実施。玄関先に緊急連絡先の表示をお願いしている。</p> <p>■高齢者の対応、災害時の対応を町内で話し合っている。要援護者リスト・防災マップを活用していきたい。</p> <p>■花は自分たちで育苗センターへ行き、手伝いをして苗をもらうようにしている。(芙蓉台自治会)</p> <p>●自治会活動に対し、今年から補助金(地域コミュニティ活動事業費補助金)が出るので、ぜひ活用してほしい。</p>

(○：前回までの意見、■：今回出た意見、●市長の発言)

	当面の取組み・課題	取組みの担い手／アイデア
地域と学校の連携	<p>■学校と家庭と地域が組んで子供達を見ていく姿勢がないと、子供達がうまく育たない時代。又、八乙女神社の活動の手伝いなど地域の役に立つことで、子供達に自己肯定感・自己有用感が生まれる。成人後の地域への恩返しや活性化にもつながる。</p> <p>●中学生が地域で活躍する事が、健全育成につながる。</p>	<p>■防災訓練では中学生はたいへん戦力になった。中学生ボランティアは絶対に使うべき。きちんとやってくれる。</p> <p>■地域の教育力を活かすため、小学校に地域のお年寄りを招いて話を聞いていきたい。</p> <p>●学校支援地域本部作りが進んでいる。学校と家庭と地域の連携が大事。</p>
団体の組織体制の把握	<p>■地域活動関係者が議論する場があることが大事。</p>	